

③神戸港コンテナ取扱量について

コンテナ取扱量比較

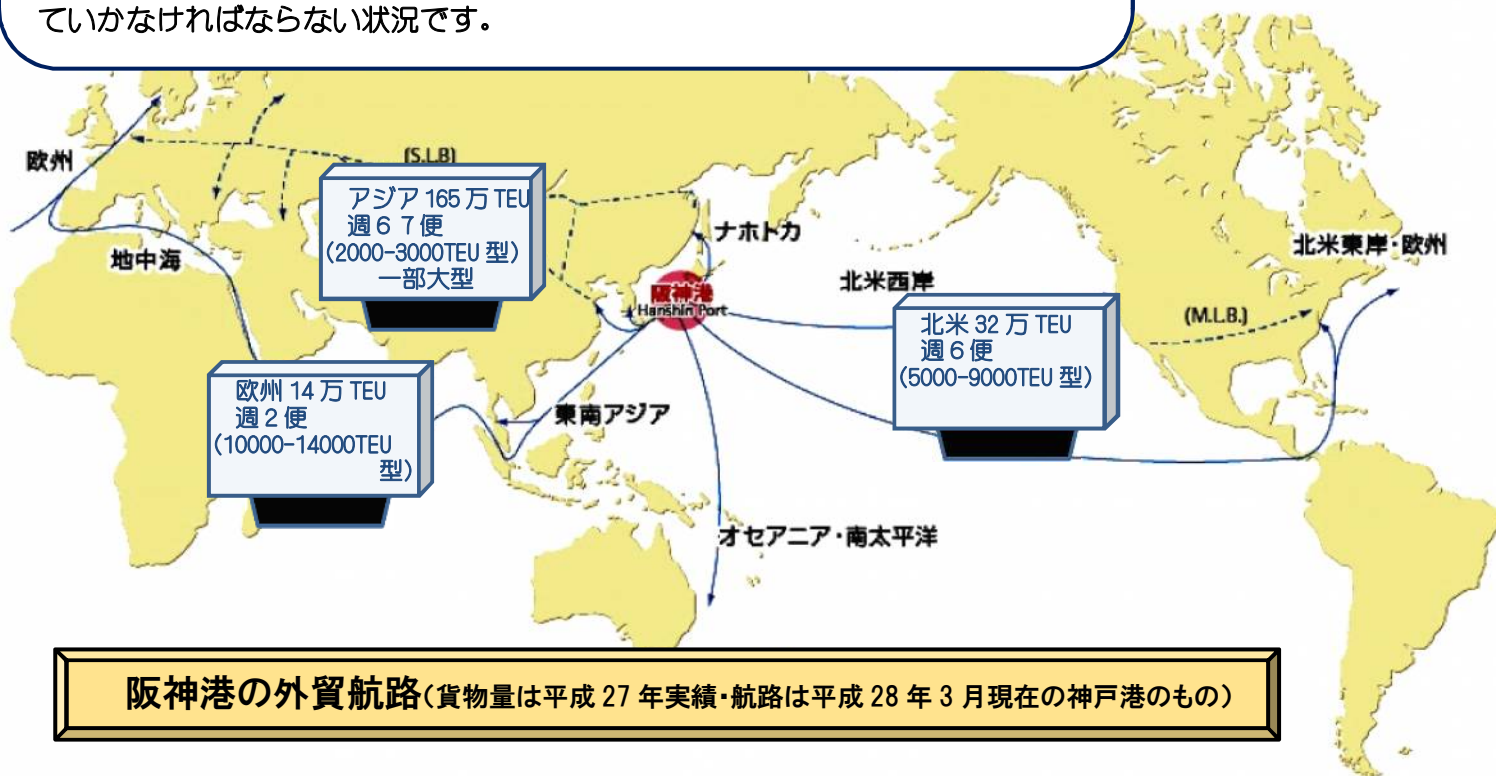
順位	港湾名	2015年	2014年
1	東京港	463	489
2	横浜港	279	288
3	神戸港	271	262
4	名古屋港	263	274
5	大阪港	222	244
6	博多港	93	98
7	那覇港	52	51
8	清水港	51	51
9	北九州港	50	48
10	苫小牧港	31	32

神戸港は、かつて、ヨーロッパのロッテルダム港、アメリカのニューヨーク港と並び世界三大貿易港のひとつでした。ところが、80年代半ばからシンガポール・香港などアジア諸港が急成長し、世界の港の中で、日本の港湾の地位は軒並み下降していきました。神戸港は、阪神淡路大震災によって更にダメージを受けました。2014年には、国内首位の東京港でさえ、28位、神戸港は56位という状況です。

しかし、少し明るい兆しも見えつつあります。左の表は、昨年のコンテナ取扱量の国内比較です。神戸港の昨年の取扱量は271万TEUと、国内では3位となりほぼ震災前の水準にまで回復させることができました。他港に奪われていた西日本の貨物が徐々に神戸港に回復してきている結果と言えます。今後は、外貿航路を維持・拡大させていかなければなりません。

④神戸港外貿航路の状況について

阪神港としての外貿航路（外国貿易航路）の状況です。神戸港は、北米・欧州・東アジア・東南アジアの各港と定期航路が結ばれています。世界経済の状況などによって、航路の新規就航・廃止は推移します。今年度、欧州航路が1便減便となりましたが、代わりに、新たにアフリカ航路が就航しました。また、エバーグリーン社のコンテナ船が東南アジア航路で新規就航するなど、明るいニュースもあります。今後は、海運会社の再編やアライアンス（共同運航）の動向をウォッチしながら、厳しい経営環境に置かれている海運事業者のニーズに的確に対応していかなければならない状況です。



⑤世界の海運会社の状況について

世界の海運会社取扱量ランキング

順位	海運会社
1	A.P.モラー・マースク(デンマーク)
2	MSC(スイス)
3	CMA CGM(仏)
4	中国遠洋海運COSCO(中国)
5	ハパックロイド(独)
商船三井+日本郵船+川崎汽船	
6	エバーグリーン(台湾)
7	ハンブルク・スード(独)
8	OOCL(香港)
9	陽明海運(台湾)
10	商船三井
11	日本郵船
12	現代商船(韓)
13	PIL(シンガポール)
14	川崎汽船

先日10月31日、日本の海運大手3社のコンテナ船事業の経営統合が発表されました。これによって、世界規模で6位のコンテナ新会社が誕生します。今後も、海運業界の動向に注目が必要ですね！！

今年の夏、まさかというニュースが流れました。皆さんも、2号線などで「HANJIN」というロゴの入ったコンテナを良く見かけたのではありませんが、8月31日、韓国大手の韓進海運が、日本の会社更生法にあたる法定管理の手続きを裁判所に申請、経営破綻しました。

決算特別委員会では、世界の海運会社の状況や、共同運航が更に拡大すること、東南アジアの諸港は人材育成も併せて考えるべきであること、また、北米航路の運賃が上昇傾向にあることなどを踏まえ、コンテナ貨物の更なる拡大についてみなと総局に質疑しました。

アジア発の北米航路の運賃は、リーマンショック前の半分程度であり、10本に1本は無料で運んでいるような状況。「ザ・アライアンス」という共同運航のグループには、日本の3社の他、韓進海運も参加予定であったが破綻を受けて仕切り直しになっている模様。一方、東南アジアの成長は港の整備も含め目覚ましく、今後、東南アジアの貨物の北米航路へのトランシップ（神戸港での積み替え）などのニーズが予測され、東南アジアの各港と連携していくことが重要などの答弁がありました。

～コーヒーも映画もはじめは港からやってきた～

開港以来、遠く海の向こうから、舶来の食べ物や文化、スポーツなどが、神戸港にやってきて、根をおろし、神戸から各地に広まっていきました。今も、その名残を残す企業や文化が根付いています。神戸開港150年のホームページに、サッカーやジャズなど、他のストーリーも掲載されています。一部ご紹介します。

<神戸港のコーヒー輸入>

日本はコーヒー輸入量が世界第3位で年間44万5,746トン（2014年（平成26年））。そのうちの4分の1を神戸港で輸入しています。国内シェアは横浜について第2位です。神戸は大手コーヒーメーカーがいくつもあり、焙煎工場も多い土地。それにともなって、コーヒー豆の扱いに長けた商社や倉庫が多くあることが神戸でのコーヒー輸入を支えてきました。

<一般にコーヒーが受け入れられる>

そんな人気のコーヒーを初めて一般向けに販売したのは、神戸の茶商「放香堂」。1878年（明治11年）12月に「焦製（しょうせい）飲料コフィー、弊店にて御飲料用或は粉にて御求共に御自由」と新聞広告を出しました。開港後すぐに港町では庶民もコーヒーを楽しむようになっていたようです。

<コーヒーの拡大に日本人>

1899年（明治32年）、コーヒー液を真空蒸発缶に入れ、水分を蒸発させて作ったソリュブル・コーヒー（溶けるコーヒー）を考案したのが、シカゴ在住の日本人化学者の加藤サトリ。手軽にどこでも楽しめる缶コーヒーを本格的に開発したのはUCC上島コーヒーでした。

<映画の始まりは「のぞき見」スタイル！>

エジソンが発明した世界初の映写機「キネトスコープ」がはじめて日本にやってきたのは1896年（明治29年）の神戸港でした。キネトスコープは今の映画と違い、箱の中でフィルムが回転するのをのぞき穴から鑑賞するというスタイル。同年11月25日から29日まで、花隈の神港倶楽部で初めて一般公開されましたが、大人気で12月1日まで興行が延長されました。日本の「映画の日」が12月1日なのは、このことにちなんで決められたそうです。

<映画のメッカ新開地と淀川長治>

明治期の新開地は繁華街として栄えていましたが、さらに映画館が立ち並び、随一の興行街に。その新開地の映画とともに育ったのが、映画評論家・淀川長治氏（1909-98年（明治42 平成7年））。幼い頃から映画館をハシゴして映画漬けの毎日を送ったことが、人気評論家を作り上げました。メリケンパークには、スクリーンのオブジェと観客に見立てた石が点在します。これらの石には淀川長治さんが選んだ、往年の映画スターの名前が刻まれています。

サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ、

〒655-0034 神戸市垂水区仲田3-1-8-202
（垂水支部）神戸市会議員 川原田弘子事務所
TEL&FAX 078-709-8998
e-mail: happy@hiroko-club.com
URL: <http://www.hiroko-club.com>

ご相談は
こちらに

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1
編集・発行 民進こうべ政策議員団
TEL 078-322-5844
FAX 078-322-6161